

「こいつあ春から～歌舞伎研修！」第四弾

～歌舞伎座で来日観光客向け説明をマスター～

2020年2月14日（金）実施 JGA 第一支部実施研修報告

2月14日（金）松竹株式会社様と歌舞伎座サービス（株）のご協力のもと、「歌舞伎研修」が開催されました。今回の演目は追善十三世片岡仁左衛門狂言の時代物と世話物、長唄舞踊、人情物などバラエティーに富んだ内容でした。

参加人数は56名（JGA 会員44名、非会員7名、運営委員2名、協力者3名）で、北海道、群馬県、愛知県、広島県からも遥々ご参加頂きました。

当研修は、松竹株式会社 演劇ライツ部 ライツビジネス室の温井秀哉様の推進のもと企画が進められ、当日は二部構成で実施されました。第一部は講義で、歌舞伎評論家の前川文子様より、1）歌舞伎座の由来、歌舞伎と他の伝統芸能である能や文楽との違い、歌舞伎と落語との関係、2）歌舞伎の音楽（義太夫、長唄、清本、常磐津）、3）追善 十三世片岡仁左衛門、4）海外での歌舞伎の反響（パリオペラ座の観客へのインタビュー）5）当日上演される演目の背景、見どころ等についてご説明がありました。

通訳案内士対象の講演とあって、ガイディングに直接生かせる内容で、特に、パリオペラ座でのインタビューは通常の講演では聞くことが出来ず、フランス人の歌舞伎の捉え方が手に取るように解る内容でした。

二部は観劇で、第一番目は十三代片岡仁左衛門が90才で舞台に立った「八陣守護城（はちじんしゅごのほんじょう）」の佐藤正清役を長男の片岡我當が演じ、第二番目は坂東玉三郎が天女に、中村勘九郎が伯竜に扮した「羽衣」、第三番目は尾上菊五郎演じる「人情噺文七元結（にんじょうばなしぶんしちもつとい）、第四番目は中村梅玉と次男の片岡秀太郎共演の「道行故郷の初雪」と、大顔合わせで先人を偲ぶ演目でした。

第一部で見どころの説明があったお陰で、「八陣守護城」での現代人にとっては難解なセリフの内容も分かり易く理解出来、また、第三番目は世話物の特性上、セリフが分かり易く、江戸情緒を感じられ、ガイディングしやすい内容でした。

全体を通じて、参加された方は熱心に講義を聴かれ、また、観劇にも感動された様子でした。

